



# 重石晃子展

〔会期〕 2024年 3月9日〔土〕—4月21日〔日〕

〔開館時間〕 午前8時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

〔休館日〕 月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日に休館）

〔入館料〕 一般400（350）円／高校・学生250（200）円／小学・中学生150（100）円 ＊（ ）内は20名以上の団体料金

〔主催会場〕 萬鉄五郎記念美術館 〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地 / TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405

萬鉄五郎記念美術館

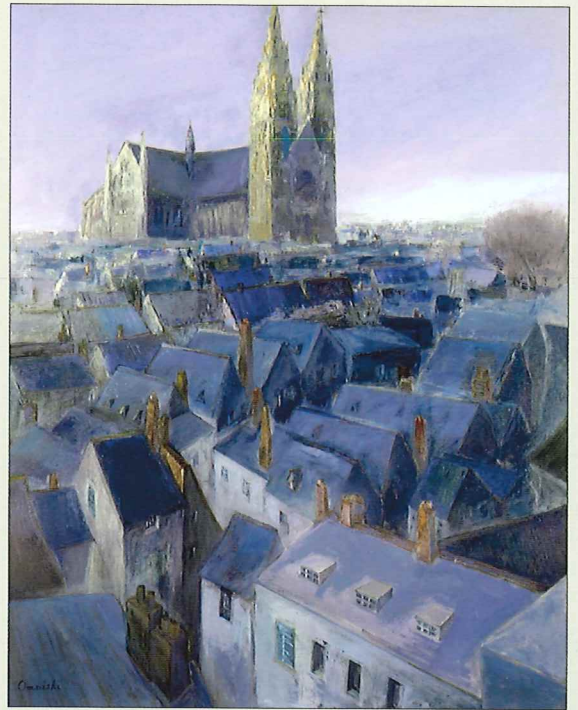
# 重石晃子展 *OMOISHI Koko*

盛岡市に生まれた重石晃子（おもいし・こうこ 1934 -）は、盛岡第二高等学校を経て盛岡短期大学美術工芸科油絵科に学び、深澤省三・紅子夫妻に師事し画家の道を歩み始めます。1975（昭和50）年から3年間、フランス・トゥール美術学校へ留学。異国の美しい街並みや広大無辺な自然に惹かれて色彩豊かな絵画空間が生みだされ、フランス美術家協会・サロン展名誉賞受賞やサロン・ドートンヌ入選を果たします。

帰国後は、一水会や女流画家協会を中心に受賞を重ねる一方、1987（昭和62）年からは東京純心女子短期大学の美術科教授（→1994（平成6）年）を勤め、2001（平成13）年には故郷盛岡で深沢紅子野の花美術館の館長（→2005（平成17））の任にあたりました。これまで次世代の指導をはじめ、地域的美術振興にも大きな役割を担ってきました。

岩手県内での発表も、1998（平成10）年に「重石晃子・欠畑美奈子二人展」（萬鉄五郎記念美術館）を皮切りに、2005（平成17）年には大規模な個展（岩手県民会館）を開催。2017（平成29）年にも公立美術館で個展（石神の丘美術館）が開かれ、岩手を代表する画家として確かな評価を得てきました。現在も、美術家連盟会員であり一水会常任委員として出品を続け、制作にあたっています。

本展は、25年ぶりとなる当館での重石晃子展になります。最初期から現在までの代表的な油彩作品をメインに地元新聞に連載された挿絵原画を加え、彼女が描き続けてきた美の魅力に迫りたいと思います。



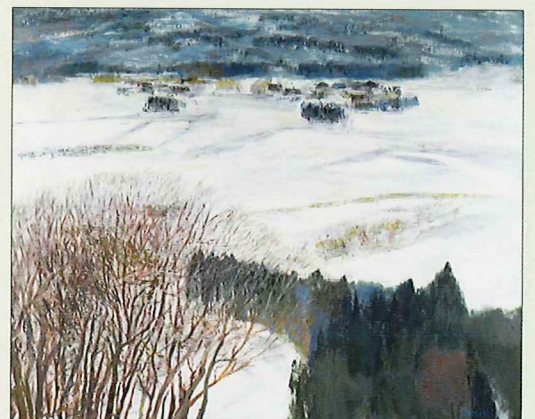
[1]



[2]



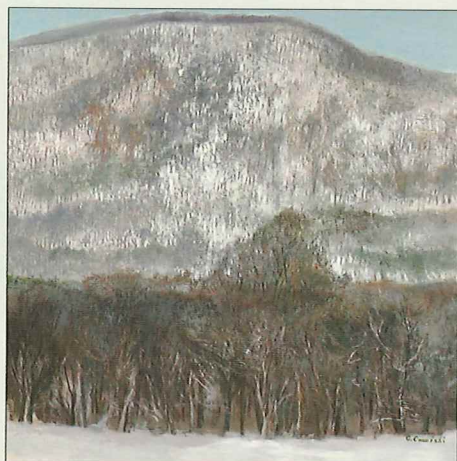
[3]



[4]



[5]



[6]



[7]

- [1] 重石晃子《カテドラル・朝》油彩・画布 162.0×130.0cm 1998（平成10）年
- [2] 重石晃子《閉じられた庭園》油彩・画布 130.0×162.0cm 1992（平成4）年
- [3] 重石晃子《夏の水辺》油彩・画布 162.0×130.0cm 1994（平成6）年
- [4] 重石晃子《雪晴れる》油彩・画布 130.0×162.0cm 2003（平成15）年
- [5] 重石晃子《ラゲーサの丘》油彩・画布 162.0×162.0cm 1996（平成8）年
- [6] 重石晃子《雪山待春》油彩・画布 162.0×162.0cm 2012（平成24）年
- [7] 重石晃子《森へ入る道》油彩・画布 162.0×162.0cm 2018（平成30）年

